群書類從

二百廿二

内閣文庫
和書
類
一八六九〇號
六六六冊
二三六函
五架

内閣文庫
和書
類
一八六九〇號
六六六冊
二一五函
二一架

内閣文庫
番號 和 18690
冊數 666(284)
函號 215 3

Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM. Kodak

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

群書類従巻第二百廿二

和歌部七十七 自哥合六

檢校保己一集

浅草文庫

日本政府圖書

豊原統秋自歌合

一番　春

左　勝

音羽河

[illegible]

右

玉鳴河

[illegible]

二番

左　高砂

[illegible]

右　勝　春日野

[illegible]

三番

左　三輪山

雪きてくすむかりや三輪の山春をしへしるしぬらん

右　勝　葛城山

[illegible]

四番

左　持　手向山

[illegible]

右　伊勢海

[illegible]

五番

左　勝　志賀浦

[illegible]

右　三嶋江

[illegible]

六番

左　猪　塩竈浦

[illegible]

右　宇津山

[illegible]

七番

左　持　芦屋里

[illegible]

右　吹上濱

[illegible]

八番

左　湯菁三崎

[illegible]

右　猪　悪山

和ふかはしをとく花は咲ころをいかてしのふ乃屋内にきたる
たつきとかふのともきこまもぬくなとや山にあらはれ松の下居

九十五

庭　猪　　水無瀬河

春のうこ成りこふかゝりてこふ瀬河夕日にかをむ山乃ゆくのうら

右　　田籠浦

いかにもむらこれ澗波にもとぬ日にひしうるへきあとれ其ふ
こ地と波ふなるこふふ色とせきこ入くかゝるなるまの花の雲

十五

庭　猪　　末松山

けふ海こまのけ遊乃名に古へやまちこゆるなこれ末の松山

右　　大渡浦

都渡の海つとをしまれ其もいはうしこて久る浪の夕雲
もこ世にまゐくもこへしの入れ立に海とおせし夜の夢れ
あけれの

十一十五　夏

庭　　大井河

大井河水のみとりも夏まえしをまはかけれつきちらる

右　猪　　信太杜

うけらくむ秋とつふこあかりしけるしれ其ゆまの下葉
花もとうかきこんふくきこ行のまゐ乃こまゐし月と思ふ
こうれ

十二番

左　　榛名野

はるかなるはるなの月影のほとみえてあくるよそらのかたに

右　勝　　御裳濯河

神風やみもすそ河のゆふすゝみ松もこ枝のかけひさすなり

夏やたゝ伊香保の沼もふかしとてこゝろつくしの花のいろ
秋の月

十三番

左　持　　伊香保沼

あま見るかたにもみるに名をしるしとてかみのあたりのいろとしらまん

右　　天香具山

白妙にかゝれる雲もゆきかへり夜あけしるきに天の香具山

星出てゝなかむる空のたかねより雁のなくさへきこえて
ゆく

十四番

左　持　　大江山

大江山まつ吹風も峯こえて山路はしるきゆふくれの空

右　　難波江

夏の夜のなにはのあしも浦の戸もまつらさ秋とこそなれ

まきのうきそもさりやとかしはてゝ水鶏もなくや
ゆくへ

十五番

左　　美豆御牧

海ともなまゆかは浪ゝ海こゝ夏れ日のめくるやとうきこゝ海の里人

右　猪　松浦山

沖つ風吹夕雲ゝ海つらうこゝ川なきこ屋海の名ふしおつらん

松風に月ふけ世々ハ羅綺のふふ所なる箱の袂すしも

十六番　秋

庖　猪　泊瀬山

秋といへんやうてあくまこもこゝ泊のこゝ浪せ乃ひいらゝ色ハ春うて

右　龍田山

秋のくるかやわひしきたつゝ服さなる浪ハそめしと

花のさやかなれなりこゝせ泥もあへすやうて稀ふ海のゝ萩原

十七番

庖　猪　須磨浦

いはかあまとこゝ海のしほ焼なれなしてあはまとこゝ秋のうらゝ泊

右　宮城野

はなしれ浪ゝ海ふ志らかなもなしつめゆくこゝ城ゝ原

そうる時海きこもさなしのへちくあまとうる里風ゝ所の風

十八番

庖　水萱岡

あらきの風ゝ海ゝ秋風とゝ川とう海まむ屋乃ゝ玉つき

右　猪　小倉山

風もてる嫗もこれ尾花ゝ花の雲秋をとくて風山をかなしき
おほろけれ雲のことはなかれをむこなかる花のむさしの原

十九番

庖　　宇治河

河風まく底のきぬ〻なるなかれぬよしらなるゝ風ゝ

右　猪　　常盤杜

深くめすぬるとゝの花のまゝまくきぬときかりけれ秋雪
いそ嫗まれ槽をくらふ風にはそるゝ風もしまて鳴る

二十番

庖　猪　　三室山

神垣やみむろ山のくとゝろゝなひく我見ましは雲風ゝ雨ふ

右　　高円野

高円乃聖への秋風ゝことに萩の下葉ゝ秋雲をそしら
揺返しまさしかしも後の世もつきせぬ雲風ゝ雪の袖

二十一番

庖　　伊駒山

いこ馬山まを清さ山まり今よりや時雨るゝ秋もこよそに
こゝ雨ゝ

右　猪　　生田池

秋つきいくこれ池のいくまひか元もしくまのわり風下法
いなかまいさ云ふひかりて田面にはいさひく春風とかなる
宮

二十二ヶ夜

庖 持　　淨見関

清さうに実路の秋もやゝぬきぬ山りに出むきいさうの夜の新

右　　武蔵野

むさしぬきれ一方とあらぬ秋ちまはかへてうつろふむさしぬ原

秋をのこゝろ景ぬらかる月新よりてこゝろ日ぬのかる

二十三ヶ番

庖 持　　伊吹山

かり先しと出しも口をまの外山より雲ぬかはしき秋の色ぬ

右　　佐良科里

かくしめて月ふ上海ぬ秋ぬらハ誰かハとハむさしかの

ゆきくれの程の中ふ社とおのまとひかきこゝろや里の花

二十四ヶ夜

庖　　白河関

月をもいくる所ふめつりきてけふ志らぬ河乃せきれ秋風

右 持　　野鳴陰

およすう浴さへ色の社と聞まてうるく蛍し海の秋のもの名

なくよりもみにてまて庭ちるくよるくむしれ冷秋の春

二十五ヶ夜

庖　　明石浦

うら風まあらしはるゝこゝ雪くまてたくもの煙衣まとたつ

右 綉

阿武隈河

帰こむまゝ世もしらぬあふ雨やうれとし浪乃秋のけりはしち
礼あひてきくもうゝ神なまはやかさすも居のちゝ白ひま

二十六番 冬

庖

清滝河

見る雨に山か夜とまちかへて冬やきぬらむきてよまれのゝこ

右 綉

小塩山

もしほ山ふるもの松もよしゝ事りぬいくよなはしくう時雨降ん
なりしまは雲はらくぬしも白ふ首れかゝるほうく志をはけ

二十七番

庖 持

住吉浦

七鶴こまはゆきあひのゝあの鶴や寒き松神にかゝる雲の雨 ナリ

右

宇野

降雨れけゝ雲所のみちかへてあとなきこゝ乃こゝりなしゆし
まうもしにとくハ生田れりまの家なはこし秋ハ花乃ふ神ぶ

二十八番

庖 持

田簑嶋

旅ふしてぬるゝこゝ花ゝ宿ふかゝりしまはきりし鶴まれ時雨と

右

有乳山

都ふきし河風かよふ風のおともはきこえぬ池の二ね枝の志くま雲
友千鳥のゆくへもなく庭の松かけのあとはかへりこそ

二十九番

左　持　浮嶋原

河なみのしろくよせくる浮雲にまたしもたえぬかきりの海のちら

右　安達原

もみちをしあたちの原の夕まくれゆふ日さしそふ霞
袖もぬれ露はきえぬる志ら原からこそ浮てちる月日ろ

三十番

左　因幡山

よこ雲も山もとみえし夕暮はにいるかたみの白雲

右　勝　鏡山

いつのまにか曇りゆく年ふれは山路まよふ夕暮のみかき
かゝるみやまの露しても月の松風さそふ夕暮の

三十一番

左　戀　伏見里

あれはてゝ年ふる里の名はふしみのさと人のまちかへらん

右　勝　霞浦

おほかたのみちとてやみなれし浦かせにかすみて風さそふ
おもひあまりてかへりてはかなき松のかける煙とまよひぬらむ

三十二番

危　石淑杜

いうふしていとせまうめむ神しくまとりての色にさもなりふわ道

右勝　筑波山

梅のたゝ咲風やはくそ山うり祢のゆ先のよそ乃うつり書

つまとかきふくやしとおりおそてもさて世間をや人と又たるにハ

三十三番

危勝　袖浦

成とはくしくらぬたるハ我おりかまもかけてそ法らき神の浦波

右　益田池

まかおりひ南をその池に花ゆとしふ祢ぬなそうて色に須かき弘

才よいうま君くやとのこ南ちしよ此今ゆもむかしき祢こそ

うまとこ

三十四中数

危　高師濱

人をまはしかけり君まにふよう波のこるし此度の松うかしき

右勝　阿波手杜

いかをしるわんて此かりの秋風よまちをふかりしくちきりなりとハ

わんて才きゆとも人のうなしをせめてハ後の世をし繋らん

三十五中数

危　志香須香渡

ふひたつむ渕をわりともたりとの後まし渕をハ志也　やんする

右勝　　演谷橋

まけておりふせ海名のたしふこの塩のかとい海しは遠　ちるゝ

たりつゝも海きてうたるふ中絶てかかしかるへき笑こおりは

三十六十四

左持　　磯間浦

ちよふけぬかはしも後るゝ風しくの雪津をとふるふ鳴てあらむ

右　　守山

津島宮の海の山かりこそる山のやまたの門たるにかめ清る

我もうへぬきけいかに風の雪かくとふへきへ公とまたの雪に

三十七十四

左勝　　佐野舟橋

なる神のとてろくよまもかかしきは寝こへ浦きしさすゝ永橋

右　　安積沼

いる海にはわやめもけたかつみるもあさかのぬ海のこえよりあれ

海こきてんえふしもあかるしてたふをしへし宿そ身をとう越しかん

三十八十四

左勝　　松嶋

哥闕

右　　緒断橋

たるやいかふけるぬしひもみちぬのとうえの橋よかすふ海とハ

[illegible]

三十九十四

左　指　　三熊野浦

みくまの浦まかさなる濱ゆふのいふもわかる袖とこせたや

右　　鳴海浦

[illegible]

四十十四

左　　二見浦

[illegible]

右　指　　名取河

[illegible]

四十一十四　雜

左　　芳野河

[illegible]

右　　鈴鹿河

[illegible]

四十二十四

左　勝　　木士山

隆高もまゝ清く時しろやきふゝ月の石二のふも山

右　　還山

東るといふと秋も南よりへ分西風まとて屋れ行もと清く寺

笛行れ志へハ我くまゝとはてゝ風もこゝ高と知りしこき

四十三十五

左　　海橋立

今こゝろも下てゝる神やけてしまじれ入れあまれてしこ

右　勝　　飛鳥河

飛鳥の歩吹かもあしていろに七瀬をきたる語をしかふ

無もるはせかなに水こゝまはふれ瀬まなのまはく

四十四十五

左　　鳥羽

時雨ゆく鳥羽山れ右はまとるくて末をへるごつく深るの見

右　勝　　辰市

あまをぬまのもとのまはけまてゝ辰の市やりへるゆふへも人の世の中

旅にてはなしも宮こき雅山とも家ちとまれむ契かなしも

四十五十五

左　　吹飯浦

神宮をこゝ友よるこ千鳥こゝやとるより小夜もる人の井の浦の

右　猪　　布引瀧

山姫や深しまれ雲をこきはらしもあへぬ布引の瀧
おきいるきこしめもしらしぬ抽き世をとりなしまをくしめむ
とやらむ

四十六十五

左　　長柄橋

むかしこまたるしハ多まれ橋ちらしあさも長柄の芦原ゆしこ

右　猪　　玉河里

多まねしてくさと夜ハうすくともたゆふゆ見ゆせを海河の里
行年れ先くりめくるやとれつくすまはりまきて菅を
いふらむ

四十七十五

左　　生浦

はてしあきれ行のうらみと人をいせふやうとれなしとこそ

右　猪　　佐夜中山

うひ孫ハ海に鶴きすれもまぬまゝなかくあふる佐夜の中山
知らとよもをてたのしむうふ利るかせハ海ゆしきこゝろ
くるしかりしな

四十八十五

左　猪　　笠峨野

おもひやるむかしもはらにかなしきは秋のさかのこ夜ハれ松風

右　　角太河

菅ぬともきてしてしむとこそこゝにあらすも出しこやこ菅ハ

いひあるハたかいかりの理とせめてかゝ人をとるもちろしやとある

四十九十五

庖稱　志賀麻市

うることもなくて年ぬるゝ志賀からこゝろのゝ[illegible]

右　和哥浦

[illegible]

志かや君神ぬるゝめし[illegible]

五十十五

庖稱　迎坂関

立ち里代よあふ坂のたゞかうらくるしとのこハなよおもひ　まむ

右　御津濱

[illegible]

右五十番所合崑玉也羅金也叩以其詞雅論雌雄兵爲朱命之不推止總綴折勾皆冠等和哥

述之意狂変不足成量蓋供一覧而已

明夜庚申暦孟陽廿二日書之

御判

右豊原統秋自歌合以播尚代謙議本書寫校合了

十市遠忠自歌合

一番　兵部少輔中原遠忠

左　立春

ア下ハ清ハありがたき雲ハ雨川ゝ如のこゝやこに立やきあらん

右

あら夜やせき吹こしてあらまほの高雄の山のはきれ雲風

左ア下ハいつくハ行りがたりと行るハみちのくハいほくハ

あまとといへうのゆやくしあるとしとくしくしく

と施すもきこえきや行くんたあらまほ乃

をとくふ山をつらしきあうにおほゆるまゆ